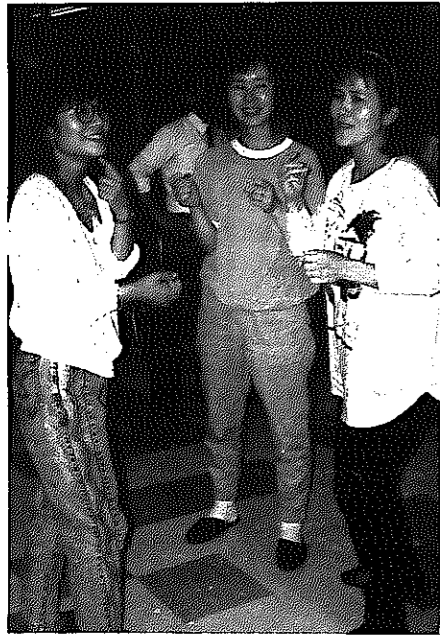


TALK & TALK

レモン通信

「本音で語り合えるコーナー」というご要望にこたえたのがこのコーナー。とかく湿っぽくなりがちな話題でも、さわやかに伝えたいと「レモン通信」と名付けました。嫁の立場、姑の立場だけではなく、男性のご意見もお寄せください。



▲家庭教育学級で(本文とは無関係)

世間体、他人の評価に躍起の暮らしに疑問

五月号の匿名希望さんの投書に深く共鳴した一人です。私も農家に嫁いで三年。初めのころこそ新しい生活に早く慣れようと、無我夢中でやってきましたが、最近では農家の在り方に疑問ばかりが浮かんできます。私も長男の嫁として未熟ながら精いっぱい努めてきたつもりです。休みなく続く家事、農作業、育児、毎日大家族の中で気を使いながらの生活、頻りに訪れる来客の接待、夜遅くまで続く酒盛りとの付き合い、後始末……。正直申し上げて若輩者の私は嫁業に疲れ果ててしまいました。専業農家を担う主人も忙しくて、気晴らしに日帰りの一日旅行すらも行っていません。この生活は一体何なのだろうと、疑問と不満の募る毎日です。またお互いの干渉も、すごいものがあり、実に細かいところまで、よその家のことを批評しております。〇〇の畑の苗の植え方が悪い、あんな

な植え方をして恥ずかしくないか、××の△△の引張りの〇×は昔こんなだったのだと、どうでもいいようなことを干渉してきます。三度三度の食事時にそんなわずかな他人の粗を批評して喜んでる。そのくせ「困ったときはお互い様」の精神を押し付けられて大変です。農家は交通事情が悪いので、事あるごとに自動車の運転をお任せ付かります。また、家族の者が十分でも二十分でも姿が見えないと、どこへ行って来た、何をしていたと、お互いの素行がすべて分かっていないと気が済まない様子です。農業収入もすべて一つの口座振り込みですから、若夫婦は収入なし。月々もらう小遣いも、台所道具やその他もろもろの家の道具に変わってしまいます。何か、私自身の愚痴ばかりこぼしてしまいました。おおかた農家の主婦は同じような悩みをお持ちではないでしょうか。家族同士の過干渉、世間体、そんなもののがんじがらめになって、常に人の評価に躍起にな

っている。そんな感じを受けます。お互いにそんなマイナスのエネルギーばかり使わず、もっと有意義に自身自身を高めることや、人の幸せを願い、心の中で相手を励ますことの方が、どんなに大事なことが分かっています。また、地域の助け合いやお互い様ということも、その言葉に甘んじて、すぐほかに頼ることはしないで、できる限り自分でできることは自分で努力して成し遂げる。「お互い様」が義務にならないで、心からなるものには、やはり「自分のことは自分で」という基本的な精神からくるものだと思います。昔から農村という狭い中で、お互い助け合いながら頑張ってきたお年寄りの皆様には敬意を表しますが、新しい考えにも歩み寄っていかないと、いばうまくいかないと思います。家族といえども個性が違ふのです。子が親の言うことを一から百まで聞いていたら、子供自身の個性のから百までをつぶすことになり、もう少しお互いのことを考えて、前向きに考えていかなければいけないと思います。時代と共に古い考えを少しずつ脱いでいかなければ、新しい可能性にふたをすることになってしまいます。私はたまたま農家の嫁で、このような不満がありますが、これは農業に限らず、さまざまな人の悩みでもあると思います。できればこういうコーナーで世代を越えて、とことん話し合えたら、こんなにうれしいことはないと思います。

(ペンネーム 考える嫁)

TALK & TALK

市民談話室

日ごろ考えていることや身の回りの出来事などを、500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただくこともあります。あて先は広報広聴係(〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所企画調整課)です。



田村ミヨ (牛崎)

血圧に良い シンジュース

私はもともと丈夫で、風邪をひいても寝込んだりすることはありませんでした。それが、平成元年に畑仕事をしている最中、突然倒れてしまいました。転んだと思ったのに、体がいうことをきかず、起き上がれないのです。脳梗塞でした。血圧が高いことは前から言われていたのですが、まさか自分が脳梗塞で倒れるとは思いませんでした。

幸い大きな後遺症は残らず、畑仕事もできるようなりました。健康というものは本当に素晴らしいものだと思えます。病気で倒れて以来、心から健康のありがたさを感じています。今も定期的に病院で検査をしますが、先生からは「血圧も安定しているし、血もきれいですよ」と、ほめられています。実は、それには訳があるのです。それはシンジュースを飲んでからなのです。

ある人からシンが血圧に良いという話を聞いて、シンジュースの作り方を教わりました。飲みやすく、おいしいと、孫たちも喜んで飲みます。血圧で悩んでいる人は、ぜひ作ってみてください。作り方を紹介します。

【材料】
赤シソの葉……………300g
水……………1升
砂糖……………1匙



荏原ミウ (上木山)

同居老人として思う 頼まれるってうれしいもの

五月号投稿の匿名様の文を読ませていただいた。私の感じたことを書かせていただきます。私からご意見を申すというふうなものでもなく、わが家では、他の家では、ということでもありません。あくまでも同居老人としてペンを執りました。手弁当を心を込めて作り、家にあつては仕事の休みの日にも農業にいらして家族の誠実な姿勢には本当に敬服せざるを得ません。また、同居老人の一族として役割を果たそうとする積極的な姿勢も、忘れてはならないものがあると思います。豊かき、恵まれた環境に追われる農村風景でしょうか。お互いに疲れ

クエン酸……………30g
(作り方)
①シンをきれいに洗う
②水を沸騰させたところへ①を入れ、ぐちゃぐちゃと煮込む
③色素が抜けて葉が青くなったら取り出す
④煮汁に砂糖、クエン酸を入れ、沸騰したら火を止めて冷ます
⑤冷めてからペットボトルなどの空き瓶に詰めて、冷暗所で保存する
好みの甘さに水で割って飲みます。発酵することもあるので、気を付けてください。



が生じ、ややもすれば不満を暴露する局面に至ることもあるかと思えます。そんな中でも、知る限りの老若男女に見受けられます。人権尊重論が高まり、家族模様も多様化する現代。匿名様の文の中からは「今どきそんな」と思えることとありますが、すぐくまじめで働き者のお嫁さんが、かたくなに「嫁」にこだわって日々励んでおられますことと、心痛の極みです。若手の「これ以上の負担は」と援助を拒む気持ちも分かりますが、年寄りにとつて「頼まれる」ということは、とつてもうれしいことなのです。たとえ疲れ切つていても、そのことによつて、新しいエネルギーがわいてくるような感じがいたします。ちょっとした心遣いでお互いに変われば、農村も明るくなると思うのですが。人生八十年時代、余生をより良く生きるため、若い世代の切なる訴えに精いっぱい耳を傾けながら学び、力の及ぶ限りこたえていきたい。そんな思いからペンを執らせていただきました。

市民文藝

俳句

ほめられて拙む十葉に夕日濃し 山田 栄一
十葉のひとむら茂る屋敷畑 知野信一郎
十葉や廊より来たる湯治客 小野 義之
どくだみや壁落ちさまに無住寺 真島つぎえ
どくだみの咲き憂きことの続きけり 間島きよ子
軒に吊る去年の十葉過疎すむ 名古屋蒼穹
十葉や少し陽のある土蔵陰 塚本 静子
十葉や旅の靴に保険証 丸山 虚秋
どくだみの花を裾に父母の墓 間島 秀穂
(以上かまつか新飯田俳句会)
菜の花や明朝ここに亡びたる 安沢 飛浪
夏の夜の街角に売る耳かざり 小林 光子
青嵐手櫛すきく訪ひにけり 樋口 トシ
すくひとる水したたりて夏隣 堀内ナナ子
花冷えの指でほどきししつけ糸 和泉 伸子
紅に色きはまりて桃散りぬ 山田 孝
行く春やトロイメライの目の悲し 細貝 漢子
素袷や思ひ出の帯締めて見し 木村 トリ
春眠の奥嵯峨に居るをかきよ 豊木サグ子
(以上大風会)

短歌

川流
肌恋空からみて水の中 五木 長吉
刈る麦の香りもありて燕し暮き 中村 京
草の匂いも澄るる野道 長谷川久二
我等学び小学校は統合し 跡地に思い出記念碑を立てり

エリートの坂に手摺が付いてある 今井 七郎
十指から少し零れている邪心 織田 福治
均等法に馴れない妻の号今 織田 セツ
保身ならライバルだって握手する 後藤マサノ
残り火に炎のページ積み重ね 佐藤トミノ
南から来た割箸の出生地 佐藤 ヨキ
百寿まで越せるか坂がもう二ツ 高橋祐四雄
あの坂は越せそうに無し暮れなずむ 竹石 甚五
追伸でおねだりする娘の手紙 田中 成子
老婆と嫁のはさまに居る振り子 田村 恒夫
まだ飽きぬ「三箇夜餅」を片付ける 中村 尚治
自画像に紅足す女のあせりかな 西条 ムラ
手品師の小道具になる鳩がいる 早川 英男
ジレンマを抱いて日の丸そつと出し 吉川 彰
ぬるま湯に馴れてしまったなまけ餅 米野 光雄
割勘の小銭を詰めて旅に出る 山岡 フミ